

Kanto Central Hospital



公立学校共済組合
関東中央病院

病院長より

当院は、昭和28(1953)年に公立学校共済組合の職域病院として出発致しましたが、現在では世田谷区の中核的医療機関となっています。病気と向きあう患者さんのために役立つ地域医療支援病院としての役割を、これからも維持・拡大して参りたいと考えています。また、令和4(2022)年からは、東京都がん診療連携拠点病院にも指定され、世田谷区のがん診療の中核病院として診療を行っております。

医療の役割は、健康を求め、病気を癒し、生き方を大切にして自分らしく生きようとする人々への場の提供にあります。そのための役割を病院が十分に果たすためには、日々進歩する医療技術の絶え間ない研鑽、新しい知識の獲得、多様な価値観や倫理観への理解、また、受診される方々の期待と需要の把握など、学ぶべき課題が沢山あります。関東中央病院では、職員すべてが、常に向上をめざす医療人としての自負と誇りをもち、課題克服のための努力を惜しみません。そして、患者さんに最適な医療を、安全かつ確実に提供できる病院でありたいと考えております。皆様のご利用を心よりお待ちしております。



病院長 小池 和彦

東京大学医学部卒業後、同大学第一内科学教室入局。1986～1989年米国国立がん研究所フェロー、1991年東京大学第一内科学教室助手、1997年講師、2004年同大学感染症御学・感染症内科学教授、2009年同大学消化器内科学教授などを歴任し、2021年4月に現職就任。日本内科学会理事、日本肝臓学会理事長、日本消化器病学会理事長を歴任。現在、日本消化器関連学会機構理事長、日本医学会連合理事、日本医学会幹事。

地域医療支援病院、東京都がん診療連携拠点病院の指定を受ける急性期病院として、地域の皆様に安心・安全かつ高度な医療を提供し、住み慣れた街・通い慣れた医療機関で療養できる地域づくりに貢献します。



診断から治療、退院後の患者支援まで包括的ながん診療を提供

大腸・肺・乳房・肝臓・前立腺のがん治療においては、長年にわたり高度な診療体制を整えており、地域の皆様からご信頼をいただいております。

近年増加している膵がんに対しても、術前治療や安定した手術手技により良好な治療成績が得られています。がんの治療を受けられた患者さんの退院後は、薬剤副作用やがん性疼痛の緩和、整容性の改善など、多職種連携のサポートチームが一丸となって、自宅療養や社会復帰の支援を行っております。

救急医療体制の強化

当院は、渋谷、世田谷、目黒の区西南部医療圏の急性期疾患を担う救急告示病院(二次救急)として救急医療体制の強化に取り組んでいます。救急外来では常勤の専属医が初期対応を行い、適切な診療科につないでいます。夜間休日のスタッフも増員し、チーム体制で24時間稼働しています

特に循環器救急の東京都CCUネットワークや脳卒中ネットワークでの救急搬送加盟施設として、多数の患者さんを受け入れています。

地域医療連携への取り組み

地域の先生方との連携の充実を図るため、勉強会や講演会の開催、地域連携バス、口腔ケアに関する歯科医師会との連携など、良質な医療の提供に尽力しています。また、地域包括ケア病棟を設置しており、緊急入院への対応からリハビリ、在宅復帰支援まで一貫して支えます。

連携医療機関も多数あり、治療が地域の中で完結できるネットワークが確立しています。

呼吸器内科

他科との連携もスムーズに、
専門性の高い検査・治療を提供

世田谷区内で、呼吸器疾患治療の中心的役割を担う病院として診療にあたっています。

気管支喘息やCOPD、間質性肺炎など専門性の高い疾患の診断治療はもとより、細菌性肺炎といった急性炎症性疾患にも対応しています。また、肺がん治療にも力を入れており、呼吸器・甲状腺外科、放射線科とも密に連携し、がん薬物療法専門医のもと最適な治療を提供しています。

また、CT、MRI、核医学検査といった画像検査や、気管支鏡検査などの専門性が高い検査も待機期間を最小に受けていただくことが可能です。

地域の特性上、高齢者の呼吸器疾患治療の経験も豊富で、その方々の状態に合わせた治療の提示を心掛けています。



常に、インフォームドコンセントの精神を重視し、患者様や御家族のご意向を確認のうえ、安心して治療・受診していただけるよう、日々努めております。

循環器内科

心血管疾患の急性期・慢性期治療
から再発予防まで包括的にサポート

当科では早期治療が生死を決する急性心筋梗塞に対するカテーテル治療(PCI)をはじめ、昼夜を問わず緊急で治療を行える体制を整えています。

不整脈に対する治療も充実しており、心房細動に対するカテーテルアブレーションを積極的に行っています。当院では最先端のシステムを導入し、治療をより安全に行い、被ばく低減にも努めています。

ペースメーカー治療の実績も多く、最先端の刺激伝道系ペーシングも行っています。

また心臓リハビリテーション部を設置、専門資格を持つ理学療法士が一人ひとりに合わせたリハビリメニューを用意し、心血管疾患で入院した患者さんの機能回復、早期の社会復帰や疾患の再発予防を支援しています。



経皮的冠動脈インターベンション(PCI)はカテーテルを用いて心臓の筋肉に血液を供給している冠動脈を再灌流させる治療です。

消化器内科

目の前の患者さんに
最善の治療を提供します

令和6年より、肝臓、胆嚢、胆管、膵臓の疾患を専門に扱う肝胆膵内科から、消化管疾患についても積極的に診療を行う消化器内科へと心機一転刷新しました。疾患の良悪性に関わらず、良質な医療を提供するべく、他の内科、外科、放射線科などと連携し、目の前の患者さんに最善の治療を提供します。

当科では、消化管(食道・胃・大腸)、肝臓、および胆膵(胆嚢・胆管・膵臓)のスペシャリストが質の高い医療を提供しております。消化器疾患全般において、一般総合病院でありながら、大学病院レベルの医療を実践しています。もちろん、当科を受診する患者さんのニーズにあわせた医療を心掛けています。他の診療科と連携し、適切な治療法を提案しているのも当科の特徴です。



より質の高い診断や治療を患者さんに提供するために、心のこもった医療を提供します。

脳神経内科

神経難病、脳梗塞の治療に注力、
新しい認知症治療にも対応

脳神経内科では、パーキンソン病をはじめとする神経難病に対しては様々な画像診断を駆使しながら的確な診断をし、発症後早期から進行期までの適切な治療を行っています。病期によって内服薬調整、病状評価、リハビリテーションのための入院にも対応しています。脳梗塞に対しては発症直後の血栓溶解療法に加え、脳神経外科と連携してカテーテルによる血栓回収を行うことができます。アルツハイマー型認知症の診断と新規のアミロイドに対する抗体治療を開始しています。検査はMRIや脳血流検査などの画像検査のほか、脳波や筋電図などの生理検査も行っています。手足の運動機能の異常やしびれ、物忘れなど認知機能の低下が気になるときは受診してください。



充実した検査体制で的確な診断と治療に取り組んでいます。

糖尿病・ 内分泌内科

院内外のチーム医療で実践する
糖尿病・内分泌診療

当科は糖尿病・内分泌疾患全般に関しまして院内外の部門・機関と協力・連携して診療に努めています。糖尿病領域では療養指導のエキスパート達(CDEJ)の匠の技と知恵を結集し食事・運動療法を中心に最新の薬物療法や医療デバイスも積極的にご提案しています。内分泌領域では甲状腺の生検や手術を外科と、原発性アルドステロン症の検査は放射線科と協力し、診断から治療まで連携して実施しています。

【教育(学習)入院】スタッフによる講義と食事・運動療法を10日間体験できます。治療の見直し等でご活用ください。

【糖尿病患者会(樺会)】2025年に50周年を迎える患者会への御入会、外来糖尿病教室(食事付)、歩く会への御参加もお待ちしております。



当科の医師と診療
を支えてくれる
CDEJ メンバー

腎臓内科

蛋白尿・血尿から透析まで、
専門的な腎臓ケアを提供

当科では主に蛋白尿や血尿などの尿検査異常を来す慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群や、糖尿病、高血圧症などの全身性疾患に伴う慢性腎臓病(CKD)による尿検査の異常、腎機能障害に対する診療を行っています。必要な場合は腎臓組織を採取して顕微鏡で調べる腎生検を行い、薬物治療が可能なものに対してはステロイドや免疫抑制剤などを使用して治療します。慢性腎臓病の患者さんの外来・入院中の薬物療法・食事療法・運動療法の指導を看護師・管理栄養士などと連携して行っています。また、血液浄化療法室では主に急性・慢性腎不全に対する入院中の血液透析を中心とした血液浄化療法を実施しています。



血液浄化療法室では医師、
看護師、臨床工学技士による
専門スタッフが連携し、
透析治療をサポートします。

消化器・ 一般外科

安全な手術で入院期間を短縮、
親身な治療で患者様の負担を軽減

当科は、365日お断りのない診療、安心で安全な手術を志しています。低侵襲手術の導入、術中輸血や術後合併症が稀であることなどから、術後の入院期間は全国平均と比べきわめて短くなっています。また、「あきらめない医療、心あたったかい外科」をモットーに、難治性のがんに対する集学的治療や、超高齢の患者様の術後のケア、退院後の療養支援にも注力しています。

令和4年より開設した腸閉塞外来には、他院で治療困難とされた方が各地から来院されましたが、腹腔鏡手術により多くの患者さんで根治が得られました。今後も新たな治療を積極的に導入し、当院へのご期待にきめ細かく対応することを目指し、スタッフ一同、尽力してまいります。



難治性の腸閉塞症例に対して
行われた癒着剥離術。腹腔鏡
を用いることにより低侵襲かつ
高い根治性を達成。

呼吸器・ 甲状腺外科

迅速な診断から治療、そして、
術後のフォローまでサポート

肺・縦隔の外科治療を必要とする呼吸器疾患と甲状腺疾患を対象としています。呼吸器については、胸部悪性腫瘍(肺癌、縦隔腫瘍等)、気胸、膿胸、胸部外傷などとなります。手術は胸腔鏡下の低侵襲(体の負担の少ない)の方法が90%以上を占めます。ときに進行肺癌では拡大手術も行っています。また、最近は集学的治療(手術前後に抗がん剤、免疫療法、放射線療法を組み合わせる)で根治性を高めるために内科、放射線科とも連携しています。気胸も低侵襲に取り組んでおり、多くは1つの傷の胸腔鏡で行って、入院期間の短縮、全国でも上位の手術数を誇ります。

甲状腺疾患は甲状腺腫瘍、バセドウ病、副甲状腺機能亢進症などが対象で最近、首の腫れが気になる方はぜひ当科を受診してください。



心臓血管外科

低侵襲な治療で、早期退院、
早期社会復帰をお手伝い

当院で心臓大動脈手術を受ける患者さんの特徴として、現役の社会人の方が多くいらっしゃる事が挙げられます。公立学校共済組合のため、現役の教職員が多くいること、またこの地域に、年齢に関係なく立場のあるお仕事をされている方が多くお住まいのことが理由として考えられます。そのような皆様が早期社会復帰ができるよう、小さな傷での手術方法を多く取り入れています。

また世田谷区は大学病院が無く、救急病院も数えるほどしかありません。心臓大動脈疾患で急を要する患者さんが速やかに治療を受けられるよう、万全の体制を整えております。



セカンドオピニオンも
歓迎致します。心臓の手術が必要と言われた時には当院での治療も是非ご検討ください。

脳神経外科

脳神経外科疾患および
脊椎・脊髄疾患に対応可能

一般的な脳外科疾患(脳梗塞、クモ膜下出血、脳内出血、脳腫瘍、頭部外傷など)に加え、脊髄疾患(頸椎症、腰椎症、脊髄腫瘍など)にも対応しています。当科では、血管内治療及び開頭手術どちらも施行が可能のため、脳梗塞の血栓回収療法(24時間対応可)や、未破裂動脈瘤、クモ膜下出血の原因である破裂動脈瘤に対して、従来の開頭術(クリッピング術)のほか、血管内治療(コイル塞栓術)も施行でき、高齢者や合併症のある方、開頭では難しい動脈瘤など、個々に最適な治療の選択が可能です。また、頭痛、めまいなど頭蓋内疾患を疑う症状でも実は脊椎・脊髄に病変がある可能性や、逆に手のしびれ、肩こり、腰痛、下肢痛などが頭蓋内の異常による可能性など、常勤の脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脊髄外科認定医が専門的な視点から診察し、必要であれば他科へ紹介します。

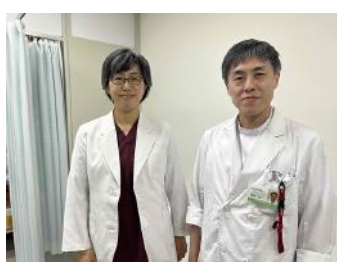


クモ膜下出血に対する緊急開頭クリッピング術中。時間帯を問わず、夜間でも対応可能な麻酔科と手術室。

乳腺外科

院内各科と協力し、世田谷区中心に近郊での診療連携を拡充中

知識のみならず経験も豊富な指導医・専門医のチームにより診療しています。低侵襲な温存手術や小切開の内視鏡手術、また全摘でも形成外科と合同での再建手術まで可能です。近隣には少ない放射線治療科や、リハビリテーション科、病理診断科との連携体制は安心。また外来主体の各種薬物療法や、薬剤師外来や癌専門の看護師外来まで守備範囲は十分です。大きくなった癌、悪性度の高い癌などに薬物療法を実施してから温存手術等へ進めるなど、現在の治療は多様。患者さんの近所の主治医が手術に参加することも多く、地域のブレストセンターとして進化中です。



形成外科

皮膚腫瘍、外傷、眼瞼下垂と幅広く対応
個々の要望に合わせてきめ細やかに診療

当科では、外傷や顔の骨折をはじめ、皮膚・皮下腫瘍、腫瘍切除後や外傷後の変形、瘢痕・ケロイド、眼瞼下垂、リンパ管静脈吻合、先天異常などの幅広い治療に対応しています。2024年からは美容外来を開設し、総合病院ならではの充実した設備と人的資源を活かして、顔面骨切り術や切開リフトなどの美容外科手術を行いご好評を頂いており、また保険の顎変形症手術にも対応しております。形態や機能の改善を目指すという当科の性質上、治療のゴールは患者さんごとに異なるので、個々の要望を汲み取り、きめ細やかな診療の実践を心がけています。お気軽にご受診、またはお問い合わせください。



繊細で高度な技術を要する形成外科の手術現場。患者さん一人ひとりの要望を可能な限り反映した治療を実践しています。

整形外科・ リハビリテーション科

ふたたび痛みなく歩ける毎日を
院内多職種連携で二次骨折予防
に取り組んでいます

得意分野は、股関節や膝関節の人工関節手術、スポーツ外傷では関節鏡視下前十字靭帯再建、手根管症候群など手外科の診断と手術治療です。ご家族や患者さん一人ひとりが、痛みのない幸せな生活を早期に取り戻すため、多職種で術前・術後のサポートをしています。

人工関節手術では、正確なインプラント設置や低侵襲手術の技術を多く取り入れ、快適な歩きを取り戻すお手伝いをします。また、大腿骨近位部骨折では72%の患者さんが入院後2日以内に早期手術(2023年度)をうけ、院内多職種連携と院外かかりつけの先生方との連携を両輪として次の骨折予防に取り組んでいます。

なお、小児科学齢までの患者さんの入院診療、手術治療は行っておりません。



多職種で二次骨折
予防に取り組んで
います。

産婦人科

常勤女性医師3名が、
検診から精密検査・治療まで
一括してサポート

当院ドックの婦人科検診は全例婦人科常勤医が担当していますので、精密検査や治療が必要な場合は、引き続き常勤医が担当できるという強みがあります。もちろん、他院での検診で精密検査が必要となった場合も、子宮鏡検査やコルポスコピー、画像検査など迅速に(タイミングが合えば当日でも)施行させていただきます。

卵巣嚢腫や子宮筋腫などの良性疾患では、子宮摘出も含めて極力創が小さく負担の少ない腹腔鏡下手術を行っており、子宮鏡下手術も積極的に行っています。また、高齢の方に多い子宮脱に対する経腔的な手術も行っています。総合病院の婦人科ですから、合併症があっても治療に不安を抱えているような方でも、内科や外科などと共同して治療が可能です。年齢を問わず、まずはご相談ください。



いわゆる「病氣」を治すだけでなく、女性が生きて活躍できるようサポートさせていただきます。

泌尿器科

個々の症例に応じた治療を提供
排尿に関する悩みにも対応

個々の症例に応じた体への負担の少ない適切な治療をモットーとし、近年増加傾向の前立腺がんでは密封小線源療法、外照射、ホルモン療法を選択、組み合わせることで治療効果を高めて根治を目指します。膀胱がんは内視鏡手術を基本に、放射線治療と化学療法を併用して膀胱の全摘回避に努めています。その他、腎がんおよび腎盂尿管がんに対する低侵襲手術、前立腺肥大症に対する内視鏡手術やレーザー前立腺核出術(HoLEP)、尿路結石に対する体外衝撃波結石破碎術(ESWL)や内視鏡とレーザーによる経尿道的尿路結石碎石術(TUL)にも対応しています。通常の薬物療法で改善しない排尿症状については、排尿機能障害専門の医師による診断と治療、ボツリヌス膀胱壁内注入を行っております。



眼科

得意の緑内障・白内障手術を軸に
視覚の質の向上をめざす

中途失明の原因第1位で、40歳以上における有病率が5%である緑内障。当科は緑内障の診療・手術と白内障手術を得意としています。日本眼科学会眼科専門医であり、日本緑内障学会評議員である三嶋弘一眼科部長を中心に、チーム医療によるサポート体制を整え、堅実な診療に取り組んでいます。

緑内障手術では低侵襲流出路再建術としてトラベクトーム手術、また低侵襲濾過手術としてプリザーフロマイクロシャント手術を取り入れています。白内障手術では最新の手術機器(Alcon社 Centurion)を用いており、眼内レンズも単焦点レンズ以外に焦点深度拡張型レンズや乱視矯正レンズなども取り入れており、術後の視覚の質の向上をめざしています。



三嶋部長は緑内障を専門とし、緑内障手術で高い実績を持っています。白内障手術も数多くの症例を手掛けています。

皮膚科

世田谷最大級の皮膚科で
多種多様な治療を提供します

感染症(帯状疱疹、蜂窩織炎、水虫など)、アレルギー性疾患(アトピー性皮膚炎、じんま疹、接触皮膚炎、食物・薬剤・金属アレルギーなど)、皮膚の損傷(やけど、けが、糖尿病性皮膚潰瘍、褥瘡など)、皮膚のできものの手術など、皮膚疾患全般に幅広く対応いたします。

また紫外線、あざへのQスイッチアレキサンドライトレーザー、乳児状血管腫のプロプラノロール内服、各種皮膚疾患の生物学的製剤、円形脱毛症の局所免疫療法やステロイドパルスによる治療も行っているほか、巻き爪にも様々な治療法を取りそろえています。

常に最新の知識をもって最善の医療を提供するべく努めてまいりますので、お気軽にご相談ください。



皮膚疾患全般や皮膚の外傷の診療に加え、全身麻酔や入院が必要な手術にも対応しています。

耳鼻咽喉科

専門医が最適な治療を提供
難聴やめまいの診療にも注力

日本耳鼻咽喉科学会認定の耳鼻咽喉科専門医が外来診療を行い、みみ・はな・のどの健康を守ります。毎週月曜日午前・金曜日午前には補聴器外来も併設しており、難聴でお悩みの方の診察や検査、補聴器の提案を行っております。補聴器適合検査の上で補聴器の適合・調整が可能です。また、めまい診療も積極的に行っておりますので、めまいやふらつきでお困りでしたらお気軽にご相談ください。難病指定医、身体障害者福祉法第15条指定医としての認定も実施可能です。なお、現在入院・手術治療には対応しておりませんが、外来で可能な小手術に関しては一部対応しております。当科で対応困難な疾患には大学病院やご希望の施設へのご紹介が可能です。

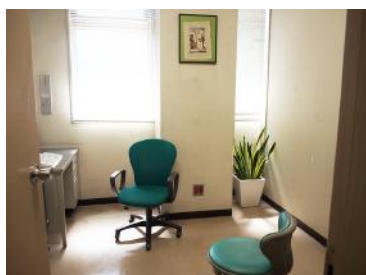


丁寧な診察を心がけております。お困りのことがございましたらお気軽にご相談ください。

精神科

児童思春期～高齢の方まで幅広く
対応 お気軽にご相談下さい

当科の特色として就学後～18歳未満の方を対象とした児童思春期専門外来があります。初診に関しては、事前に診療情報提供書を頂いた上で予約をおとりすることで、長くなりがちな待機期間を短縮しています。児童思春期に見られる症状には、対人関係の悩みを含むさまざまな要因があります。当科ではご本人に寄り添いつつも、将来につながる支援を目指し、時間をかけた診療を行っております。成人の方を対象とした外来では幅広い年代の方を診療しており、不安や不眠といったこころの不調にも対応しております。ご高齢の方ではうつが強い不安やからだの症状にあらわれることもあり、受診に迷われた際はお気軽にご相談下さい。

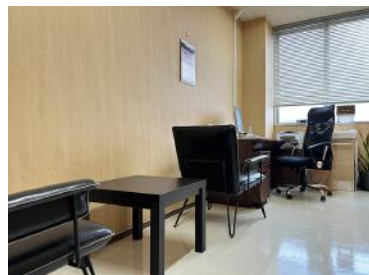


リラックス出来る心地よい
雰囲気の良い診療室です。

メンタルヘルス科

うつ病や適応障害の
診断・治療

都内の総合病院精神科や精神医療専門病院での臨床経験を重ねてきた2名の医師が診療しています。主に、都会の勤労者が陥る、軽症の精神障害を専門としています。「うつ病」、「適応障害」、「発達障害」などの種々の精神障害ではそれぞれ症状の性質や発症経緯、治療課程が異なりますので、現実的な治療目標の設定、適切な精神療法的方針・薬物療法の選択に力を入れています。また、併設の関東中央病院メンタルヘルスセンターと連携して、精神障害で休暇中の公立学校教員の復職支援や、メンタルヘルス相談、ストレスチェックで高ストレスと判断された方の面談も行っています。なお、当科は、外来診療だけを行っていますので、入院治療が必要な例の対応はできません。公立学校教員の方だけでなく、一般の方々の診療も行っています。



診療室内は明るく、落ち着いて
相談できる雰囲気となっております。

小児科

丁寧な対話と適切な精査で
心地よいフォローアップを

小児科は現在常勤1名体制で外来診療を行っています。また専門外来には月2回、小児循環器専門の医師による心臓外来をおこなっています。入院加療は人員の問題から、10年以上前より行っておりませんが、精査の必要な場合や、詳細なフォローアップを望まれるお子さんについて、近隣のクリニックから幅広くご紹介をいただいております。通常の外来ではなじめないとき、もう少しだけ時間をかければ病気のコントロールの改善を見込めるとき、あるいはご両親のご心配が募りやすい場合などには特にお力になれるよう、丁寧な対話を心掛けております。お子さんにまつわる困りごとがありましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



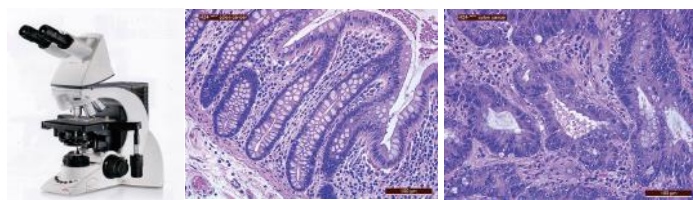
つらい病気も日常の
子育てもサポートし
ます。

病理診断科

その具体的な仕事内容
お話ししましょう

病理診断科の医師(病理専門医)は、患者さんに直接お会いすることはありません。私たちが毎日出会うのは、来院なさった患者さんの病気の診断に不可欠と考えられる患者さんの身体から採取された組織です。その組織を処理しスライドガラスに貼り付けた標本を顕微鏡で観察します。そして、病気が“癌であるのか・炎症であるのか・問題はないのか”を判断し、主治医にその情報を提供することが病理診断科の仕事です。その判断は人間の眼に見えない細胞を見て判断しなければなりません。人間が肉眼で見える限界は $200\mu\text{m}$ (0.2mm)。赤血球の直径は $7\mu\text{m}$ 。癌細胞はその数倍の大きさ。したがって、顕微鏡がなければ仕事のできない職場が病理診断科なのです。

当院の顕微鏡とその顕微鏡観察で正常大腸粘膜、大腸癌と判断された写真(A-C)：



A: 当院の顕微鏡 B: 綺麗に配列した正常大腸粘膜 C: 無秩序に増殖し汚い大腸癌
(組織写真の倍率は200倍で両者同じ倍率。正常よりがん細胞の方が遥に大きく異常である)

放射線科

高度な検査機器を用いて最先端の
画像診断・放射線治療を実施

放射線科は画像診断部門と放射線治療部門に分れています。画像診断部門は最先端のCT、MRI、核医学検査装置を用いて、放射線診断専門医による迅速かつ、適切な画像診断を提供しています。また、画像診断により臨床的に想起されていない重大な疾患が偶然発見されることは決して稀ではありません。そうした疾患についても、医療安全管理室と連携し、早急に担当医にフィードバックするシステムを構築しています。また、CTを用いた膿瘍ドレナージや生検、血管撮影装置を用いた心・大血管と頭頸部以外の低侵襲血管内治療も画像診断部門の担当になります。放射線治療部門は、放射線治療専門医により、主のがんに対してエビデンスに基づいた適切な治療を行っています。



他科との連絡を密にし、
定期的なカンファレンス
を行い、根拠に基づいた
治療を行っています。

健康管理科

毎年の人間ドックで病気を予防
各診療科との深い連携が大切

社会情勢は不安定で、貧困、紛争などで社会的弱者が世界でも問題になっている一方で、日本は現在も世界一の長寿国です。幸福でさらに健康寿命を伸ばすには、すべての人に健やかな生活習慣と疾病予防が必要といわれています。そのためには介護の原因となる疾病の早期発見、フレイル対策、認知症予防が不可欠です。当科のコースは一日ドックに加えてゆったりと検査を受けられる二日ドックがあり、幸せに健康寿命を延ばす Well-being を目標にしています。各診療科との密接な連携によって、多くの方に継続的に予防医療を受けていただいています。お一人での受診はもちろんですが、ご夫婦やご家族と一緒に 毎年人間ドックを受診しましょう。



救急対応

各科が連携して救急医療を提供しています。

当院では急な体調不良のために徒歩で来院される方から、急性心筋梗塞に対する高度で専門的な治療を必要とするCCUネットワークや脳卒中の急性期治療を必要とするSCUネットワークでの救急搬送、緊急手術を要する外科系症例まで、多くの患者さんに救急医療を提供しています。COVID-19に対しては、パンデミックの初期から自力来院、救急搬送を含めて多くの患者さんの診療を行い、検査から入院対応まで幅広く対応して参りました。高齢化が進む地域の医療需要に応えるべく、各専門科が連携して複数の問題を抱える患者さんを総合的に診療し、必要な医療を提供しております。これからも総力を挙げて世田谷区の救急医療を支えて参ります。



人間ドック

現代は予防医療の時代です。
定期的な受診を！

当院では、1日コースや2日コース等の人間ドック、受診者のニーズに合わせた各種オプション検査などの幅広いメニューをご用意しております。

また、質の高い医療の提供や各診療科との連携により、予防から治療まで一貫したフォローを行っています。年に1回など、定期的に人間ドックを受診されることをお勧めします。



東京都災害拠点病院

東京都災害拠点病院である当院。災害発生時には院内の病院機能を維持しつつ、緊急医療救護所を立ち上げ、院外から運ばれる傷病者を迅速に治療できるよう、定期的に訓練を実施しています。

また医師、看護師、事務職員6人にてDMATを結成し、首都直下型地震などの際には災害現場での救急医療に携わります。



メンタルヘルスセンター

公立学校共済組合の組合員に対するメンタルヘルスサービスを行っています。精神疾患により休職中の教員の復職支援プログラムの運営に力をいれていますが、そのほかにもストレスチェック制度に関わる業務（集団分析結果報告書作成や高ストレス者面接など）、メンタルヘルス相談、各支部教育委員会主催の研修会での講演を行っています。近年は、東京都教育庁や世田谷区教育委員会と連携して、教員のメンタルヘルス支援のモデル構築に取り組んでいます。



薬剤部・医療技術部

診療放射線科

マンモグラフィはデジタル施設認定を取得し高品質な画像を提供しています。

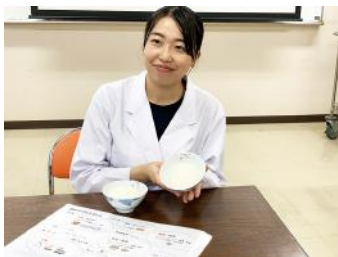
また、AIによる画像再構成が可能になり、CTでは低被ばく、MRIでは短時間、高画質の画像が提供できるようになりました。各部署に認定技師を配置し、放射線の被ばく管理も個人での管理を行っており、安心と共に安全な画像検査に努めております。



栄養管理室

献立は管理栄養士と調理師が話し合い、季節の食材や行事食、郷土料理などを取り入れています。また、NST、緩和ケア、認知症等の病棟ラウンドを通して患者さんの状態に合わせた食事の提供を行っています。

栄養指導では認定資格を持った専門の管理栄養士が患者さんの心に寄り添った栄養指導を心がけています。



臨床工学科

臨床工学科は生命維持管理装置の操作・保守点検・管理を行い、チーム医療の一員として患者さんへの安全・安心な医療の提供を目指しています。主に手術室での人工心肺操作、透析室、心臓カテーテル検査、アブレーション、ペースメーカー管理、機器管理室の業務を行っており、緊急時には24時間365日対応できる体制になっています。



薬剤部

調剤、病棟薬剤業務（服薬指導・薬品管理など）外来で化学療法の説明、抗がん剤無菌調製、医薬品購入・品質管理・在庫管理、医薬品情報提供などを行っています。またチーム医療として、感染制御・抗菌薬適正使用、栄養管理、褥瘡管理、認知症ケア、緩和ケア、骨折リエゾンサービス、糖尿病教室にも取り組んでいます。



臨床検査科

臨床検査科は血液や尿の分析を行う検体検査と心電図、超音波検査などの生体検査があり、検体検査6部門、生体検査2部門、検査採血室から構成されています。

健康状態の把握、病気の診断や治療方針の選択、また治療効果の判定の指針となる検査データを診療科に正確かつ迅速に提供しています。



リハビリテーション室

当室では入院中の方を中心に運動器疾患、脳血管疾患、心大血管疾患、呼吸器疾患、がんリハビリテーション等に対応をしています。全診療科からの依頼を受け、必要に応じて周術期を含めた早期からの理学療法、作業療法、言語聴覚療法を提供し、身体的・社会的回復を専門スタッフがサポートしております。詳細や実績につきましては当院のホームページでご確認ください。



治験管理室

治験とは、医薬品や医療機器の製造・販売承認を得るために行われる臨床試験のことです。

治験に参加される患者さんの人権や安全が守られるように、また有効性や安全性が科学的な方法で正確に調べられるように、治験の実施には厳格なルールが定められています。

治験管理室では、当院で行われる治験が安全かつ質の高いものとなるよう取り組み、また製造販売後調査の業務も実施しています。



看護部

「地域で生きる」を支える急性期病院で、
私たちができる看護が広がります。

看護部長ごあいさつ

当院は、世田谷区の総合病院として、急性期医療、がん医療、救急医療を中心に、安全で安心な医療・看護の提供に日々努力を重ねています。

人生 100 年時代、人生をより良く生きていくために、病院では最適な医療の提供と併せて退院後の生活支援をどのようにしていくかが今まで以上に求められています。また、当院では、安全で安心な医療の提供とともに、「患者さんの意志と自己決定権を尊重する」ことを大事に、多職種によるチーム医療、専門的な看護の実践、地域の関係機関との連携等を推し進めているところです。このことを実践していくために、看護基礎教育の上に、「地域」「急性期看護」「高齢者看護」「看護倫理」「看護管理」「医療安全」「感染管理」の7本の柱を土台とした新たなキャリアパスを構築しました。基礎コース、キャリア発展コースを基盤にした卓越したジェネラリスト、スペシャリスト、看護管理者・教育者を柱にした人材育成や自分育てを特に大事にしています。

病院の中で、病院と地域との間で、また地域で私たち看護職に求められること、できることが広がっています。最適な医療・看護の実践とともに、関係職種、関係機関と協働し、地域で生きる患者さんが自分なりに自立できる支援を実践していくことに力を注いでいく所存です。



看護部長 加世田久美子
国立病院四国がんセンター附属看護学校卒業。
日本医科大学付属病院、国立病院等経験後、
2020年4月より関東中央病院に入職。2024年
4月より現職。2022年認定看護管理者取得。

★看護部の理念と基本方針★

私たちは、互いを尊重し、安心と信頼に応える看護を提供します

1. 患者さんに満足される安全で安心な看護を提供します
2. 質の高い看護を提供するために、自己研鑽に努め共に学び成長します
3. 看護の専門性を発揮し、他職種とともにチーム医療を推進します
4. 地域の保健・医療・福祉機関と連携し、患者さんの地域での生活を支えます
5. 組織の一員として、積極的に病院経営に参画します



★患者支援センターにおける看護専門外来についてご紹介します★

がん看護専門外来

がん看護相談とは、がんと共に生きていく上で、治療や生活などの不安、患者さんご家族がその人らしい生活を送れるよう支援していくことを目的として行っています。

ストーマ・創傷看護外来

専門的知識と技術を持つ皮膚・排泄ケア看護師が、オストメイトに応じてストーマ（人工肛門・人工膀胱）ケアし、ストーマに関する知識を深め、日常生活をより快適に過ごせるようにサポートします。

糖尿病療養指導・フットケア外来

主な内容はフットケアをはじめとした合併症予防、療養相談です。

糖尿病をもちながら、その人らしい生活を送れるよう、生活調整を一緒に考えています。

リンパ浮腫外来

リンパ浮腫に対し、ドレナージ、圧迫、運動、生活指導を行っています。また、ご自宅でもセルフケアできるよう、よりよいケア方法を考え、悪化せずに過ごせるよう関わらせていただいています。





- ・東急田園都市線「用賀駅」下車徒歩25分
東急バス 用21「関東中央病院」行/用22「美術館」行(約10分)「関東中央病院」下車(正面玄関に到着)
東急バス 等12/用06「成城学園前駅」行(約10～15分)「関東中央病院前」下車1分
- ・小田急線「千歳船橋駅」下車徒歩15～25分
- ・小田急線「成城学園前駅」東急バス 渋24「渋谷」行(約15～20分)「関東中央病院前」下車1分
- ・JR線・東京メトロ線・東急田園都市線・東急東横線・京王井の頭線「渋谷駅」東急バス 渋24「成城学園前駅」行(約30～40分)「関東中央病院前」下車1分

(P) 駐車場のご案内

- ・166台収容(内障害者スペース7台)

外来診療のご案内

月～金

■ 初診受付時間 8：30～11：30

■ 再診受付時間 7：50～11：30

※診療科、曜日により異なります。

休診日：土曜 / 日曜 / 祝日 / 年末年始



公立学校共済組合

関東中央病院

住所：〒158-8531 東京都世田谷区上用賀 6-25-1

電話：03-3429-1171 / FAX：03-3426-0326

<https://www.kanto-ctr-hsp.com/>

